

イーストベイ日本語教室

イーストベイ、San Leandroに小さな、そして先生方や親御さんたちが宝物を掌の上で大切に愛玩するように運営している日本語学校があるのをご存知だろうか。「イーストベイ日本語教室」4月6日に入学式を行い、創立3年目に入った。そこにお邪魔して校長の茂呂節枝先生をはじめ先生方、父兄の方にお話を伺った。



みんなで合唱

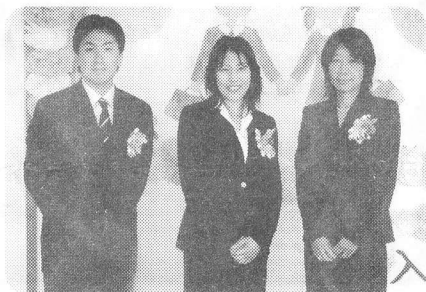
実は日本語の、あるいは日本語による教育を望む家庭を受け入れる教育機関はカリフォルニア州でも万全とは言えない。特に永住あるいはそれに近い形でアメリカに滞在する家庭のお子さんが、受験という枠組みにとらわれずしかも言葉ばかりなく、文化も子供の年齢に応分のレベルで身につけることのできる学校というところまでほとんど皆無だったと言つてよいのではないだろうか。茂呂先生がこの学校を創る決心をしたのはそのような状況の不備を埋めること、そして何より子供たちに、生活の流れに溶け込んだ環境で楽しく日本語、日本文化を学ぶ、安心できる場を提供したかったからだ。「アメリカで育つても子供たちに日本人であることをよかったなと思つてもら

いたいです」と先生は言う。実際、アメリカで子供時代を過ごしたから国際人、などと物事は簡単に運ばない。というより「国際人」という奇怪な日本語はそもそも何を意味しているのだろうか。「国際人」とやらは自分の心の置き所をどこに見出しているのだろうか。茂呂先生は「子供たちがここに來るのが当たり前の子供たちの自分の場所、子供たちの心の故郷、そんな学校を目指しています」と語っている。

「子供たちの自分の場所、子供たちの心の故郷、そんな学校を目指しています」この学校の特色のひとつは火・水・木のウィークデーに授業を行なうことだ。補習校など他の日本語学校が土曜日に開講しているのとは一線を画している。「だつて土曜日、日曜日はお休みの日ですもの。お休みの日はご家族で過ごしてもら

たですから」と茂呂先生の言葉に力がこもる。だから敢えて教員の確保が困難なウィークデーに学校を開いている。その茂呂先生を力強くサポートするのが加藤先生と坂本先生だ。加藤先生がこの学校で働くことを決めたのは茂呂先生の教育への情熱と人柄に共鳴したからだという。「自分には教員の経験がありませんから、それで何か自分にできることをと思ひます。この学区は少数民族ですのお子さん一人一人に目が行き届きま

ず、学ぶ楽しさを教えてゆきたいと思ひます」と抱負を語る。少人数のよさということはお話を伺った父兄の方々も口をそろえて強調する。「ひとりひとりをよくみて下さるので安心です。」「言葉だけではなく文化やしつけも教えて下さいます。」「親と先生、子供の信頼関係が出来ています」とみなさんこの学校に満足している様子だ。そんな学校のよい雰囲気はなにより子供たちの笑顔を見れば実感できる。この日入学した子供、それを迎える子、みんな花マルの笑顔だ。友達や先生に会いたくて、学ぶのが楽しくて子供たちが集まるところ。それが学校の本来の姿じゃなかったか。



左から、坂本竜一先生、茂呂節枝先生、加藤貴子先生



光の中へ



みんなでチーズ

イーストベイ日本語教室

所在地： 615 Lewelling Blvd., San Leandro, CA 94579
連絡先： enihongo@hotmail.com